

2020.5.24

みやぢ 宮地 アンガス

目曜論壇



ARS)の

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が22日までに、本県など47府県で解除された。営業を再開した宿泊施設や観光施設が増えていくが、これを機に新型コロナ収束後(コロナ後)のインバウンド(訪日客)観光の回復につながる「新たな観光の取り組み」について考えてみたい。

国内外で収束するにはまだまだ時間がかかるだろうという意見も多い。しかし本県にとつてコロナ後のインバウンド回復に向けた準備は早いほうが良いと思われる。なぜなら、200

感染が拡大した香港のように、予想よりも短期間で事態が収束し、インバウンドが回復した例があるからだ。

加えて国内外の他の観光地は、新型コロナの収束前にもかかわらずインターネット上で地域の魅力を海外に発信したり、観光回復につなげたり

外国人誘客へ地域パスを

する取り組みを粛々と進めていく。

コロナ後は訪日客のニーズも変化するだろう。しばらくの間、旅行者は人が密集している場所を回避し、壮大な自然や田舎体験など開放的な気分になれる目的地を選ぶ可能性が高い。ほかに不特定多

数が利用する公共交通機関を避け、自動車(レンタカー)を使った旅行を選ぶ外国人が増えると考えられる。

幸い本県は、壮大な自然と田舎体験という観光資源に恵まれている。訪日客向けにレンタカーを使った広域周遊型の観光プログラムをつくれ

る。日本には地域で訪日客のレンタカー利用を促す取り組みとして「地域版インバウンド高速道路乗り放題パス(地域パス)」が存在する。北海道のほか東北や中部地方、瀬戸内・山陰・四国、九州の各地域では、パスが域内インバウ

ば、埋もれていた本県の観光資源を掘り起こしたり、2次交通の不足といった課題を解消したりすることができる。さらには車を使って目的地までスーツケースを楽に運べるため、レンタカーの利用は旅行者1人当たりの宿泊日数や消費額を増やせる利点もある。

しかし本県を含む北関東圏では、この地域パスがまだまだ作られていない。仮に、圏北関東圏の観光回復が大きく前進し、インバウンド低迷県から脱出できるようにしたい。

タカーを借りて、本県の観光地を直接訪れることが容易になる。本県を含む北関東一帯の利便性が一気に向上するのだ。

昨年12月29日の本欄でも述べたように、本県のインバウンドにとつて、県境を越えた北関東圏の広域連携は急務である。

レンタカーを利用した北関東圏の広域周遊型観光プログラムと、関東の各空港と北関東圏をつなぐ地域パスを「新たな観光の取り組み」として作れないものか。これができれば、コロナ後に本県を含む北関東圏の観光回復が大きく前進し、インバウンド低迷県から脱出できるようにしたい。

(ジャパン・ワールド・リンク社長)

育目、その方々の意向

など中東3カ国を歴訪して、新型コロナ対応を議題以降、新型コロナの影響などとしたテレビ電話会議を実に7回実施している。G7首脳が十分かどうか不安を訴え